

「まずは人と会って仲間をつくるべし」「農業生活に楽しみを見いだして」Uターン等により新規参入で農業を開始されたみなさんへアドバイス!!

令和3年度新規就農激励会は新型コロナウイルスの蔓延に配慮して中止となりました。ご参加を予定していたみなさまには心よりお詫び申し上げます。

激励会では先輩農業者を代表して津和野町の田中海太郎さんの講演を予定していました。当レポートにてその要旨をご紹介します。ぜひご一読下さい!!

■講師のご紹介～福岡県から津和野町へUターン就農した田中海太郎さん

・田中海太郎さん(昭和49年生まれ)は福岡県の出身です。東京の大学へ進学したことを契機に、都会生活への疑問やゼミで学んだ食糧問題について考える機会がありました。そこで「大学を卒業したら自分の好きなことをしてみたい」と奮起。2000年に農業研修先として島根県津和野町にUターンしました。



■百姓になりたい!何でもできる地元のじいちゃんに憧れて

研修では田舎暮らしの精神論を徹底的に叩き込まれたそうです(農業技術はほとんど教えてもらえなかったとか)。その中で海太郎さんが驚いたことは農村に暮らす人達が農業・大工・左官・漁師・猟師・炭焼き・食品加工...何でも器用にこなす存在であったことでした。「百姓になりたい(百の仕事をこなすという敬意を込めて)」。この時の刺激が現在の経営形態に反映されているようで、農繁期こそ農作業に明け暮れていますが、農閑期になると様々な副業にも取り組んでいて、農村生活そのものを楽しんでいる様子がうかがえました。



■これから農業を始めるみなさんに伝えたいこと

Iターンして21年。地域の農業者としてすっかり定着している海太郎さんに、これから農業を始めるみなさんへ伝えたいことを伺いました。「農業技術に関してはお話しできることは無いが農村暮らしに関することなら。」と大変に遠慮されながらお答え頂きました。

- ・とにかくにも人と会う事、まずは仲間作りをするべし
- ・やねこい(むずかしい)人にこそ謙虚に。自分次第で相手はいくらでも変わる。味方や応援団をいかに増やすか、いずれは自身も応援する立場になる訳だから。
- ・郷に入っては郷に従え、3年ほど踏ん張れば周りが認めてくれる。一度信頼を得ればこっちのもの。
- ・楽しめる農業、または楽しみを見つける。全てのこと(育児や趣味も)を農業とからめて。

■見知らぬ外国に来たと思うくらいの覚悟で

「農業経営の成功には色々と近道があるかもしれませんが、定住には地域の人達の温かい眼差しと私たち新規参入者自身の地道な努力しかありません」。とかく就農時においては、農地・居住地・農業技術の確保を先行してしまいますが、まずは就農地域の信頼を得ることが大切で優先順位を間違えないようにして欲しいと教えて頂きました。海太郎さんは最近、Iターン者と受入地域の両者に対して「見知らぬ外国に来たと思って対応して欲しい」と相互理解を促す機会があるそうで、移住者ならではの視点を持った仲介役としても貢献されているようです。



■筆者からひとこと

海太郎さんには一貫して農村で信頼関係を築くことの重要性を伝えていただきました。そして何でもこなす農家(百姓)への憧れが今なお続いている、その挑戦を楽しんでいる様子が感じ取れました。就農当初から変わらないこの姿勢が、Iターンして20年以上経過した今も農業を続けている原動力になっているのかも知れません。

これからの目標として高津川流域(鹿足地域)の仲間らと共に、有機～環境保全型農業を視野に入れた自分たちの世代の農業スタイルを確立していきたいと教えていただきました。また、もっと将来的にはデジタルに逆行した仙人のような生活にも憧れているというのは驚きです。この他にも独自のこだわり農法など楽しい話題を紹介頂く内容でした。

私自身、以前から懇意にさせて頂いており、いつも気さくに接してくれる田中海太郎さんのこれからの躍進も期待しています。

執筆：しまね農業振興公社 就農促進課 高橋

「たまたま農園の大解剖～これから就農する方へ～(田中海太郎様 提供)」から要旨抜粋により編集